

自己点検・評価 報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生公務員専門学校 北九州校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生公務員専門学校北九州校の2018年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2019年 3月 31日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 小原 秀史

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 12 -
	基準 6 教育環境	- 13 -
	基準 7 学生募集	- 15 -
	基準 8 財務	- 16 -
	基準 9 法令遵守	- 17 -
	基準 10 内部質保証	- 18 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 19 -
	基準 12 国際交流	- 20 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

教育理念

公務員としてふさわしい人材の育成を通じて、国家・地域社会の発展に貢献し、人々の幸福に寄与する。

教育目標（人物育成像）【公務員総合科（1年過程）】

- （1）幅広い教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- （2）実社会との積極的な関わりを通して、高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- （3）自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。

以上をもって、公務の具体的遂行を担う人材を育成する。

教育目標（人物育成像）【公務員専攻科（2年過程）】

- （1）幅広い教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- （2）高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- （3）自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。

以上をもって、公務の具体的遂行を担う人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- (1) 公務員総合科（2年過程）を中心に、人間教育に関するカリキュラムを充実させる。
- (2) 学生・保護者がともに満足できる質の高い就職先を確保する。
- (3) オープンキャンパスの参加者が本学校の卒業生・在校生等との交流の場を設ける。

2. 取組み状況

(1) 従来、カリキュラム内で不足していたフィールドワークを補うことに重点を置いた。公務員総合科（2年過程）では、職種研究ゼミを実施し、班毎にWebサイトを用いた調査や官庁への訪問等を行い、年度末にその成果を学校長や他学科の教員を交え、発表した。その際、訪問先へのアポイントメント等は学生が主体となって行うよう指導した。ボランティア活動では、北九州市青少年ボランティアステーションと連携し、多くの自治体主催のイベント等に補助スタッフとして参加した。また、福岡県警察小倉北警察署と連携した取り組みである防犯パトロール隊に多くの学生が所属し、暴力団追放運動やニセ電話詐欺撲滅運動等を行った。今年度は新たに小倉祇園太鼓、子ども食堂、農業体験等の地域活動にも積極的に参加した。

(2) 職場見学を充実させるため、以前より実施していた第7管区海上保安本部見学に加え、北九州市消防局市民防災センター、小倉少年鑑別支所等の新たな見学先を学生に提供した。また、教務会議では公務員試験に関する情報共有を徹底することで、チームとしての受験指導の実現に努めた。

(3) 昨年度同様、8月に国家公務員、県職員、消防士等の卒業生を招き、年に一度の特別なオープンキャンパスである「公務員フェスタ」を実施した。また、在校生の最終合格者による合格者座談会を実施した。

3. 総括（成果と課題）

(1) 職種研究ゼミを通して、学生が主体性を持って行動する力やプレゼンテーション能力等を高めるとともに職業理解を深めることができた。しかし、班毎の発表内容に大きな格差があったと考えている。次年度は今年度の内容を踏襲するとともに、担当教員がより多くの助言をする機会を設け、その格差を是正していく。

(2) 職場見学により新たな職種の魅力発見に繋がり、学生・保護者ともに満足できる進路の選択肢を増やすことができた。また、公務員採用試験一次合格率98%以上、最終合格率91%以上を達成し、前年度を超える結果となった。しかし、面接や集団討論に関する知識・スキルの共有に関しては、いまだ個人の能力に依存している部分もあるため、教務会議や勉強会等を増やしていく。

(3) 特別なオープンキャンパスである「公務員フェスタ」の参加人数は過去最高の数字となった。次年度も今年度の内容を踏襲するとともに、新た試みとして在校生を対象とした実施を検討している。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

「法人の理念」、「学校の教育理念」、各学科の教育目的および育成人材像は明文化され、職員には年度開始前の定例会議にて確認を行い、学生には年度開始時のガイダンスの中で、学生便覧を用いて説明している。また、Webサイト・パンフレット等により校外へ発信している。今後、非常勤講師に対して更なる周知徹底を図る必要がある。

【課題】

非常勤講師に「法人の理念」、「学校の教育理念」、各学科の教育目的および育成人材像を共有する機会。

【今後の取組み】

「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。教職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。
Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	B
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	B
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	B

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の理念に沿った運営方針・事業計画を策定し、規定通りに運営・共有している。組織の運営・管理については、会議の開催や、メールによる文書の配信によって情報共有を適時行い、情報システム化による効率良く業務を遂行できている。

学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、麻生塾システムで広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。勤怠システムでは、教職員の出退勤に関する管理行い業務の効率化に取り組んでいる。年度開始前には、組織図や各種委員役割分担表などを用いて各職員が職務分掌を理解している。教職員の採用、人事給与に関する取扱いは、各規程等を整備し、学校法人として取りまとめて、適正に運用している。事務組織は規定通り設置され、十分に機能している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

新年度より新たなシステムを導入するにあたり、学生に関する情報管理システム、業務処理システムを活用し、教育活動ならびに事務業務の改善をはかることで、業務の効率化と意欲・資質の向上を図る。職員の意欲・資質向上を図るため、研修を本部担当部署の指導のもと推進していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	A
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	A
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	A
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	B

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

「ディプロマポリシー」・「カリキュラムポリシー」とともに明文化され、職員には年度開始前の定例会議にて確認を行っている。学生には年度開始時のガイダンスの中で、学生便覧を用いて説明し、Webサイト・パンフレット等により校外へ発信している。また、教育課程編成委員会等から複数の学校関係者の意見を取り入れ、検証している。

【課題】

今年度、「ディプロマポリシー」・「カリキュラムポリシー」の見直しを行ったための、職員による十分な検証。

【今後の取組み】

教職員に対して定例会議等で周知を行う。学生に対しては、入学時ガイダンスにて保護者と共に説明を行うことと、ホームルーム時間を活用し周知を行う。社会公表については学校ホームページへの掲載を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	B
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	B

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程編成委員会等から複数の学校関係者の意見を取り入れ、「全体の奉仕者」としての資質と実務能力を持つ有能な人材を育成するための教育課程を編成し、規定通りに実施している。また、教育課程を実施するための教育内容は、各学科を担当する教員でカリキュラム・シラバス作成会議を開催し、適宜改変を行っているため、業界のニーズを踏まえているといえる。授業はシラバスに基づき実施されているが、シラバスの内容は各教科の担当教員に委ねているところがある。適切な教育方法・学習指導・充実したリメディアル教育は本校の誇る特色の一つであり、高い公務員試験合格・採用実績がそれを説明している。実践的な職業教育は、公務員総合科（2年過程）を中心に行われ、キャリア教育は学科に関わらず十分行っている。

【課題】

シラバス・コマシラバス作成における、教員体制の構築。

【今後の取組み】

年度末に担当科目毎の会議を実施し、教員全体でシラバス・コマシラバスを作成し、誰が授業担当となっても授業の内容・質に違いがないようにする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	A
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	A
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	B
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	A
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	A

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

前期・後期それぞれの終了時に、教育の改善のための教師アンケートを実施している。結果は、管理職員から該当職員にフィードバックされるとともに、必要に応じて授業内容・方法、クラス運営の改善を図るための指導を行っている。

【課題】

授業に関して改善を図る取り組み。

【今後の取組み】

年度末等の公務員試験が実施されていない時期を中心に、授業アンケート等による学生の「生の声」を活用し、教員間の授業見学や科目担当者での勉強会を通して、学科運営上の課題として改善していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	B

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定めており、学生に対して入学後のオリエンテーション等で学生便覧を用いて成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準を説明している。成績評価・単位認定および進級・卒業判定は、規程に基づいて決定している。

より客観的に評価するため、複数の教員の意見を取り入れ、実施している。

【課題】

成績評価をする際の評価体制。

【今後の取組み】

成績評価・単位認定を行う時期に会議を実施し、学科の枠をこえ、より多くの教員の意見を集約していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	A
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	A

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取組みを行っているか。

【総括】

専修学校設置基準その他法令を遵守しており、教員要件、定員に対する法令上必要な人員を適切に配置している。教科別担当教員についても専門性と経歴等を考慮し、必要な教員体制を構築している。また体制の構築・整備は適宜見直しを行い、適切に実施している。麻生塾全体で教員研修計画を作成し、教員のスキルアップを図るべく研修を実施し、教員は可能な限りそれらの研修に参加している。年度末には、企業等と連携した実務に関する研修にも参加している。

【課題】

教員の研修参加時期。

【今後の取組み】

11月以降は過年度同様に教職員の研修参加が可能である。4月から10月までの公務員試験対策期について、カリキュラムや業務内容を再度検討し、教職員が研修に参加できる環境を整える。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	A
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	A
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

就職率・就職者の割合向上、退学率低減のため、年度開始時に設定した目的・目標を全教員で共有し、教務会議等で随時、進捗状況を確認している。教員全体で目標達成のために協働した結果、公務員合格率等のほとんどの目標をしっかりと達成できている。また、年度末に数値結果を取り纏め、振り返り会議等を行い、次年度に向けた申し送り事項を確認し、改善につなげている。卒業後のキャリア形成の把握や社会的評価に関しては公務員という職種の関係上、実施は非常に難しい状況となっている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

公務員合格率の維持・向上のために従来の取り組みを着実にを行うとともに、新しい公務員試験制度への対応など新規取組みにも着手する。また退学防止のために教務会議で情報共有を行い、担任だけでなく学校全体として学生を支えていく仕組みを継続する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	C
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	C

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生への就学・進路支援に関しては、面談や保護者を含めた三者面談を定期的に行うのみならず、状況に応じて適時実施し、学生をサポートする体制は十分に機能している。学校生活の中では、学生が担任やスクールカウンセラーによる面談を常時受けられる体制を整えている。奨学金制度も充実しているため、学生を経済面から支援する体制も十分にあるといえる。また、健康診断の実施や学生寮・部活動の紹介等、学生の健康管理、生活環境・課外活動への支援も行っている。しかし、卒業生・社会人への支援は十分に行えているとはいえない。

【課題】

卒業生に対して講習・研修等を行う体制。

【今後の取組み】

訪問してくる卒業生から要望を聞き取り、どのような講習や研修が必要かを調査する。その後に本校として提供できる講習や研修があれば、卒業生に声をかけて講座を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	A
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	A
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	A
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	A
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	B
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

専修学校設置基準、養成施設指定規則の則りまた、教育上の必要性に対応した施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。

また、公務員採用試験に専念できる環境を整えるため、教室のほかにもパソコンルーム・トレーニングルーム等の施設設備を設置している。また、前年度末より新たなパソコンルーム・面接指導室・図書コーナーを設置している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

定例会議等で、より徹底した管理・運営方法を検証していき、最良な教育環境を全学的に提供できるような体制を整えていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学習目的に沿った実習施設を整備し、実践的な学びができる環境を整えている。自治体へのインターンシップにあたり、安全対策を含む注意事項を文書化し、実習前に対象学生に配布・告知を行い、学生・生徒災害傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入させている。学校の設備・備品を整備する体制や災害や事故に関する予防措置をしっかりとっており、安全で快適な学校生活を維持している。

【課題】

特に大きな問題はない。

【今後の取組み】

学校における安全点検については、防災訓練を定期的に行っている。台風、大雨や地震対策の訓練など、近年の自然災害への安全対策を今後は計画していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	A

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

- ・学生募集については、アドミッション・ポリシーや学費、募集定員などを募集要項や Web サイトにて公表し、学校としての学生受け入れの方針を明らかにしている。
- ・募集活動において、資格・検定などの結果を報告するとともに、就職実績についても保護者をはじめ参加者にパンフレット等を配布している。
- ・入学者選考は、公表している選抜方法に則り、公平かつ適切に実施している。オープンキャンパスでは、希望者に特待試験問題(過年度)を提供している。
- ・入学者の選抜実施方法や選考基準を設け、この基準に沿って複数の教職員で選考を行っている。
- ・学生納付金は妥当性を理事会等で審議・決定し、募集要項に明示している。

【課題】

アドミッション・ポリシーの共有。

【今後の取組み】

新しいアドミッション・ポリシーについて各会議にて情報共有を行い、教職員の理解を促進する。特に入試にかかわる職員については、入試前の打ち合わせにてアドミッション・ポリシーを読み合わせ、入試担当者の意識を統一する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	B
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	A
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	A
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	A
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開

- ・定員充足率、入学者比率は、改善傾向で、収入と支出のバランス、また、貸借対照表からみて、財務基盤は安定しているといえる。
- ・年度予算を作成し、設備投資予算等を含め本部にて承認している。毎月、勘定項目および予算の執行状況を確認し報告している。会計監査（内部・外部）体制については、学校法人が公共性を担保するために、会計士監査と監事に寄る監査体制を敷いて適切に運営している。毎年度公認会計士による監査を受け、監査報告書による監査結果を得ている。
- ・毎年、予算編成・計画立案に関するヒアリング後、予算計画を立てている。予算執行に伴う効果を、管理票を元に分析・検証している。
- ・私立学校方及び寄付行為に基づき、会計監査を実施している。監査報告書を作成し、理事会へ提出している。
- ・財産目録、事業報告書については、利害関係者は閲覧することが可能な体制になっている。監査報告書、貸借対照表、資金収支計画書、消費収支計画書は Web サイト上で公開している。固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って運用している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

適切な予算管理と執行手順の順守を継続する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	A
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

- ・学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、定例会議等で周知徹底を図っている。法令に関する研修において、知識の習得に努めている。
- ・毎年度、諸規定は定期的に整備し、適切に運用している。
- ・法令等遵守に関する啓蒙や研修等が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。
- ・法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われて、法令等遵守義務や違反に対する処分等が、規程の中で明確にされたり、法令遵守違反等に対しての調査・報告及び再発防止策等がなされている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも、会議で周知徹底を図り、誤りのないよう努めていきたい。あわせて、各種法令の閲読をとおして、その内容の吟味と確認を促していきたい。
教職員に対しては、「コンプライアンス」感覚を磨くためにも、相互の確認と点検の重要性を認識させ、規定に基づく業務の徹底を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	B
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。ま

- ・毎年度、定期的に自己点検・自己点検評価を行い実施結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし専門学校の質保証・向上への取り組みを行っている。
- ・自己点検・評価については、企業関係者や地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れた改善を行っている。
- ・自己点検・評価報告書を作成後、学校関係者評価委員会で報告を行い改善案などの意見を取り入れ、承諾を得た後、学校関係者評価報告書をまとめ Web サイト上で公開している。

【課題】

自己評価の結果、判明した課題の重要性と改善策を全教職員が正確に把握し、学校全体で課題の改善に取り組む仕組みの構築。

【今後の取り組み】

定例会議等で委員以外の職員と情報共有を行い、活動する上でより多くの意見を反映させていく。評価基準や項目を明文化し、全教職員が統一した評価基準で点検を行うよう今後も継続を図る。自己点検・評価は全教職員が行っており、業務改善意識が定着している。現状を的確に把握し、必要点は早急に改善し、課題解決を行っていくことが重要である。自己点検や自己評価の過程で、徹底した点検を心掛け、事前防止を図るとともにその運用とに細心の注意を払っていききたい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	A
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	A

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

本校が公務員として活躍できる人材を輩出することを目的としているため、学生には積極的にボランティア活動に参加することを促している。今年度は、北九州市青少年ボランティアステーション・社会福祉協議会・福岡県警察等と連携した取組みや小倉祇園太鼓・子ども食堂・農業体験等、学校全体で社会貢献・地域貢献活動を実施した。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

これまでの活動を継続的に行うとともに、学生が主体的に参加し、人間的な成長につながるボランティアを探していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	A
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

公務員専門学校の特性上、留学生の受け入れを行っていないが、海外留学プログラムに関しては学生・保護者ともに説明し、麻生塾本部に設置している担当部署が中心となり、生活指導等の対応・管理体制の整備を行っている。

【課題】

海外留学プログラムを希望する学生の人数が増加に対する対応。

【今後の取組み】

近年、海外留学プログラムを希望する学生の人数が増加し、留学に関する相談が増えている。留学担当の教員の教員はいるが、担当以外の職員も十分に対応できる体制を整える必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	—
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	—
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	A